

令和3年度 学校自己・関係者評価システムシート（私立栄東中学校）

目指す学校像 建学の精神「人間是宝」、校訓「今日学べ」のもと、豊かな人間形成を図り、社会に寄与する人間の育成を積極的に推進する。また、生徒一人ひとりの充実した学校生活と進路希望実現を目指し、生徒、保護者の期待に応える進路指導の在り方を実践する。

- 重点目標
1. 平素の授業を大切に意欲的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、学力の向上および将来の進路希望を実現させるための進路プログラムの充実を図る。
 2. 横断的な学習を通して、問題発見力や課題解決力、論理的思考力を培う。
 3. 部活動や学校行事等を通して、個性を尊重し合う心と、さまざまな問題を深く捉えていく態度を育てる。
 4. 本校の教育活動を生徒、保護者および、受験志願者、地域住民に対し、幅広く広報し、情報提供を行う。
- *重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
*番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者 7名

学校自己評価					年度評価		
年度目標			年度評価		達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	効果的な授業を展開し、基礎学力の定着および実践力の養成に努めている。 教員個々が自己研鑽をさらに積み重ね、主体的な学習姿勢の育成に努めている。 生徒個々が進路を具体的に考える将来設計に繋がるプログラムを実施する。 ICTを活用した授業を取り入れ授業の向上に努めている。	・学習意欲の高揚 ・基礎学力の定着と実践力の向上 ・学習指導計画に基づく教科指導力 ・進路指導、進路プログラムの充実 ・ICT教育への対応	・授業および継続学習の重要性の意識づけ ・教員個々の研鑽 ・教員の教科指導力向上 ・学習指導部会の実施 ・進路指導会議の充実 ・進路指導プログラム、進路ガイダンスの実施 ・二者、三者面談の実施	・学習指導の工夫、改善により、生徒の学習意欲を高め基礎学力の定着や実践力が向上したか。 ・指導体制を支える組織が効果的に機能していたか。 ・生徒が将来像を描く機会が提供でき、意欲的に取り組めたか。 ・ICTを活用した教育活動に成果が見られたか。	・生徒の現状を模索しつつ確認テストなどを実施し、基礎学力の定着を図ることができている。 ・ICT環境の充実により、感染症の感染拡大のみでなく、有事の際にICTを活用した授業に柔軟に対応できた。 ・平素の授業においてもICT機器の活用が浸透している。 ・教科会はより大きな成果のためさらなる充実が求められる。	B	・カリキュラムが充実しつつあるが、さらに栄東にとって効果的であるように常に検証する。 ・コロナ禍による変化をきっかけに学習指導全体を再検証する。 ・ICTの活用が浸透しているが、さらに効果的な活用法を模索する。また、生徒のタブレットの利用についても、さらに効果的な活用法を指導する必要がある。 ・教科会などをより充実させる。
2	アクティブ・ラーニングを通して問題発見力・課題解決力を養成し、グループ討議、発表等を実施している。 生徒の主体性を引き出し、さらなる意識の高揚を図る。 修学旅行や語学研修を通して、国際理解教育を推進している。	・各種プログラムの成果 ・生徒の意欲的な取り組み状況と成果 ・校外学習や修学旅行の事前研究や事後の発表等の取り組み状況	・問題や課題の解決に至るプロセスを思考させる。 ・研究活動の充実 ・生徒の豊かな発想を引き出すための助言指導 ・校外学習や修学旅行の事前研究や事後の発表等の計画の充実	・魅力あるプログラムとなっていたか。 ・生徒が主体的かつ意欲的に取り組んだか。 ・校外学習や修学旅行のレポート内容が充実したものであったか。	・中高一貫でアクティブ・ラーニングを通して主体的な学習ができるようになり、総合型選抜、学校推薦型選抜で大学に合格する生徒が増えつつある。 ・コロナ禍による活動制限による影響は大きく、従来の活動の多くが実現できなかった。	B	・コロナ禍による活動制限を前提とした活動を模索・工夫し、有意義なものにする必要がある。 ・アクティブ・ラーニング活動にも積極的なICTの活用を模索する必要がある。 ・中高一貫の利点を活用して、探究活動を中学時から始め、高校につなげていく。
3	学校生活を通して、豊かな人間形成を図り、心身の健全な育成に努めている。 公共の場でのマナーや他者への思いやり、感謝の気持ちを持つよう、継続的指導を徹底させる。 給食を通して、食に対する正しい知識、姿勢の育成に努めている。	・学校行事への取り組み状況 ・部活動参加状況 ・公共マナーの状況 ・道徳教育の充実 ・給食指導の充実	・文化祭、体育祭等の学校行事の充実 ・部活動への参加奨励 ・生徒集会等における公共マナーの指導や講話による啓発 ・「考える道徳」の実践 ・食育指導の充実による偏食の改善、食に対する意識づけ	・学校行事への取り組みが意欲的であったか。 ・マナーを意識した節度ある行動がとれたか。 ・多様な価値観があることを理解し、道徳的価値について考えることができたか。 ・給食を通して正しい食習慣が身についたか。	・行事、部活動など、活動制限のある中、工夫して実施、十分な成果をあげていた。 ・登下校時のマナーについては十分な達成とはいえない。 ・道徳教育については、生徒が自ら考え、発表できる工夫がみられた。 ・給食については、黙食を徹底させることができた。	B	・コロナ禍による行事等の制限を前提とした計画をもとに3年間の行事の目標を明確にする必要がある。 ・公共マナーや給食指導については、教員間で基準を明確にする。 ・校内での携帯電話の使用などの問題点とそれに対する具体的な指導基準を共有する。
4	HP、説明会を通じての外部発信およびSHIP、メール配信での保護者向けの情報提供を適宜行っている。 募集広報活動により、説明会への動員、受験志願者の増員に努めた。	・HPおよびSHIPの更新状況とその内容 ・学校説明会や進学相談等、積極的な募集広報活動状況	・学校情報の提供と内容の一層の充実 ・学校説明会、体験学習等の積極的な募集広報活動の推進	・SHIPの利用状況の増加がみられたか。 ・学校説明会等の募集行事への動員が図られ、高い評価が得られたか。 ・志願者数を高水準で維持できているか。	・HPのリニューアルなど、受験生への情報発信が充実していた。 ・対保護者、対生徒への情報発信はプラットフォームが統一されておらず、利便性に改善の余地がある。	B	・今後も様々なツール、メディアの活用で情報発信の充実を図る。 ・対保護者、対生徒の情報発信についてはわかりやすく、充実したコンテンツを提供する。

学校関係者評価	
書面での回答	
学校関係者からの意見・要望・評価	
・感染症が蔓延する中、生徒、学校、保護者一丸となった柔軟な対応がなされ、安心して通学させられた。	・オンライン授業等も含め充実した学習指導が効果的に活用され、生徒が各自の目標の進捗状況を確認しながら意欲的に学習ができていたようである。
・ICTについては、各自の学力に応じた各種プログラムの活用など、工夫の余地もある。また、情報リテラシーの指導も必要である。	
・感染症蔓延の影響で活動の制限はあったが、生徒一人一人が状況に応じて自身の興味を深めており、人間的な成長とともに、自主性を高めつつ楽しみながら学習に取り組んでいる。	・中学校段階から各自の学習成果を披露する機会があることは学習意欲向上に有効である。
・制限下の活動についてはより有意義なものにするべくさらなる改善が必要である。	・日々の充実した活動を学校の特長として受験生などに「見せる」工夫が必要である。
・学校内の教育活動、諸行事、部活動などを通じて人間性の基盤が創造されている。社会が大きく変わっている中、さらに工夫を期待したい。	・食習慣の変化(黙食など)からマナーや価値観の異なる他者への気遣いなどを学べている。
・教育活動全体について、社会の変化に対応した工夫、改善は常に進めていくべきである。生徒の心に残すためには題材などの精査も望まれる。	・SNSの使用など、事故や犯罪を未然に防ぎ、生徒を守るような指導がより重要となる。
・HPはリニューアルされて大変見やすくなり好印象である。生徒や保護者への情報共有も充実した。	・情報収集がWebやHPが基本となる中、さらなる充実したコンテンツが期待される。
・広報活動、入試問題の質の良さなど、受験者数が1万人を維持できていることは大きな成果である。	